

氏名	野 田 憲 男		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1454 号		
学位授与の日付	昭和59年3月31日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	<b>肺癌の免疫化学療法</b> <b>第1編 Randomized control study による免疫療法の検討</b> <b>第2編 免疫賦活剤（OK-432）の肺癌患者末梢血単球機能に及ぼす影響について</b>		
論文審査委員	教授 折田薫三	教授 太田善介	教授 長島秀夫

### 学位論文内容の要旨

肺癌における非特異的免疫療法の有効性について、臨床ならびに免疫学的に検討を加えた。第1編では、化学療法との併用で randomized control study を施行し、免疫賦活剤（OK-432, PSK）の有効性を検討した結果、進行肺癌で、OK-432投与群で若干の生存期間の延長を認め、また免疫賦活剤投与群、特にOK-432投与群に、化学療法による血液毒性の軽減ならびに白血球減少時の感染症合併頻度の減少を認めた。第2編では、癌免疫で重要な役割りを果たしているとされる単球-マクロファージ系細胞へのOK-432投与の影響について肺癌症例において検討した。その結果、単球実数においては変化は認められなかったものの、単球水解酵素である $\beta$ -galactosidase 活性、走性能、腫瘍細胞増殖抑制作用の有意な亢進が認められ、また貧食能も亢進する傾向が認められた。よって、OK-432の抗腫瘍効果の発現の機序の一因として、これら単球-マクロファージ系細胞の機能亢進が考えられる。

### 論文審査の結果の要旨

第1編では肺癌65症例を化学療法単独、OK-432併用、PSK 併用の3群に randomize し、後2者、特にOK-432併用群に延命作用がみられ化学療法時の副作用を有意に軽減することを明らかとしている。第2編では、OK-432の作用機作を単球の面からとらえ、OK-432投与により低下している単球の酵素活性、走性能、貧食能、肺癌株細胞を標的

とする抗腫瘍性の上昇することを臨床的に明らかとしている。以上は、癌の免疫化学療法の実際に当たり極めて重要な知見を与えたもので、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。